

2021 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [赤穂市立有年小学校] 担当教諭名 [小垣内 大佑] (5年1組 8名)

相手国・地域 [インドネシア]

海外学校名 [SDN Sagalaherang IV] 担当教諭名 [Leni Lesnawati]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	世界とつながろう	29
	国語	「固有種が教えてくれること」	11

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	豊かな環境と恵まれた教育を世界に
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	日本にもインドネシアにも、固有の豊かな環境がある。美しい海、山地、そこに住む固有種、四季の移ろいなど、自然の素晴らしさを世界のより多くの人々に知ってほしい。また、教育を受けられない子供を無くしていくためにもっと努力できることはないか考えてみてほしい。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
SDGsを初めて知ったことで、自国や世界が抱える問題を知り、これまで暮らしてきた地域から視野を広げることができた。環境問題や、飢餓問題などに特に興味をもち、エコバッグを使う、給食を完食するなど、自分たちにもできることをしようという意欲に繋がった。	相手校と進学する時期が異なるため、1学期の内は学習を殆ど協働では行えなかった。また、お互いに繁忙期やコロナ禍への対応もあり、緊密な連携をとることが難しい面があった。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
自分たちの言葉や考えが他国の人々にも伝わることを体感し、世界が少し身近になったのではないかと考える。また、日本だけではなく、世界的にも問題は山積しており、1人1人ができることを実践して、これからの世界をより良くしていきたいという意識が芽生えた。	当初、主に言語の違いから、海外の方どう連携していけばよいのか分からず、不安だった。しかし、実際に連絡を取り合い会話をしていくと、「相手も同じ目標に向かって努力している」と感じる事ができた。ICTの活用は、海外の方との交流には大変有意義な取り組みだと考えるようになった。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	7月	・自己紹介 ・自国の好きなところ紹介	・これからインドネシアの相手校と協働で学習しようという意欲が見られた。	総合4
共有 テーマ学習	7月 9月 10月	・インターネット、社会科資料集、図書室の本を活用し、調べ学習を行った。	・これまでは考えたこともなかったような、世界規模の話に興味をもち、積極的に調べ学習に取り組んでいた。	総合10 国語3
融合 メッセージ作成	11月 12月	・自分たちが調べた内容を模造紙にまとめ、相手校に発表した。 ・Zoomを用いて会議を行い、互いの考えを交流した。	・インドネシアの相手校との交流を非常に楽しみにしていた。そのための準備を高いモチベーションで行い、相手校からの連絡を心待ちにする様子が見られた。	総合7 外国語3
創造 壁画制作	12月	・壁画に描きたい図案を全員が考え、1人1人の良い点を出し合って下書きを完成させた。壁画の作成は担当箇所を中心に、協力して行った。	・壁画の作成は学習当初から楽しみにしており、図案を出し合う時から学びを活かした様々な案が積極的に出されていた。	総合6 図工4
評価 振り返り 自己評価	2月 3月	・SDGsについて再度学び直し、世界が抱える問題や、守りたい環境などについて改めて考えた。	・今回テーマに選択しなかった目標についても関心をもち、特にエネルギー問題や飢餓問題について調べていきたいと意欲をもっていた。	総合2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	教師がそう感じた場面と理由
異文化・自文化を理解する力	5	互いの国の紹介をしたり、両国について調べたりする場面では、インドネシアの自然や文化を知ること、その良さを感じると共に、日本の良さを改めて見付けるきっかけにもなったから。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	日本に住む1人の人間として、世界の教育問題や環境破壊を見つめ、考える点では客観的にとらえることができたと考える。一方、素直な児童が多く、批判的な思考に至ることができたかは疑問が残る。
主体的に考え行動する力	5	これまでにない規模の大きさを感じる学習に高いモチベーションを示し、今年度より導入されたタブレット端末を積極的に用いて情報を収集する姿が多く見られた。相手校とのコミュニケーションについても、意欲的だった。
多様な他者と対話・協働する力 (海外の相手と対話・協働)	3	壁画の作成や、Zoomを用いたテレビ会議に関しては、互いの意見を出し合い、協働することができたと感じる。一方、テーマ学習の段階では、連絡をあまり取れず、自校の判断で進める点が多かった。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	これまでに学習してきた内容を自分たちの思いと共に壁画に表現することができた。特に、国語科の内容や給食、自然学校、昨年までの地域学習など、様々な分野と関連させて壁画を構想した点が多かった。